13.施工後の確認方法

●受信機は、下記の試験をしてください。

❶ 火災試験……取扱説明書　29・30ページ参照
❷ 一斉試験……取扱説明書　31・32ページ参照
❸ 電池試験……取扱説明書　32ページ参照
❹ 防排煙個別起動制御……取扱説明書　33ページ参照
❺ 防排煙個別復帰制御……取扱説明書　34ページ参照
❻ 差動式分布型感知器（空気管式）の作動継続時間の測定方法
……取扱説明書　35ページ参照

●接続した感知器は下記の動作試験をしてください。

注 ●詳細は、各試験器に付属の取扱説明書を参照してください。

❶ 熱感知器（差動式・定温式・補償式スポット型）の場合は、加熱試験器で加熱試験をしてください。
❷ 煙感知器（光電式・イオン化式スポット型）の場合は、加煙試験器で加煙試験をしてください。

●絶縁試験をする場合

●外部配線相互間の絶縁試験を行う場合は、感知器・終端抵抗器・受信機の外部配線を切り離して行ってください。
また、絶縁抵抗が低下している場合は、周辺機器を破壊するおそれがあるので事前にテスターで抵抗値の確認を行ってください。

パナソニック電工株式会社　HA・セキュリティ事業部
〒514-8555 三重県津市藤方1668
© Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2008
8A2 E55 00003 K0604-21208A

Panasonic

保管用　屋内専用

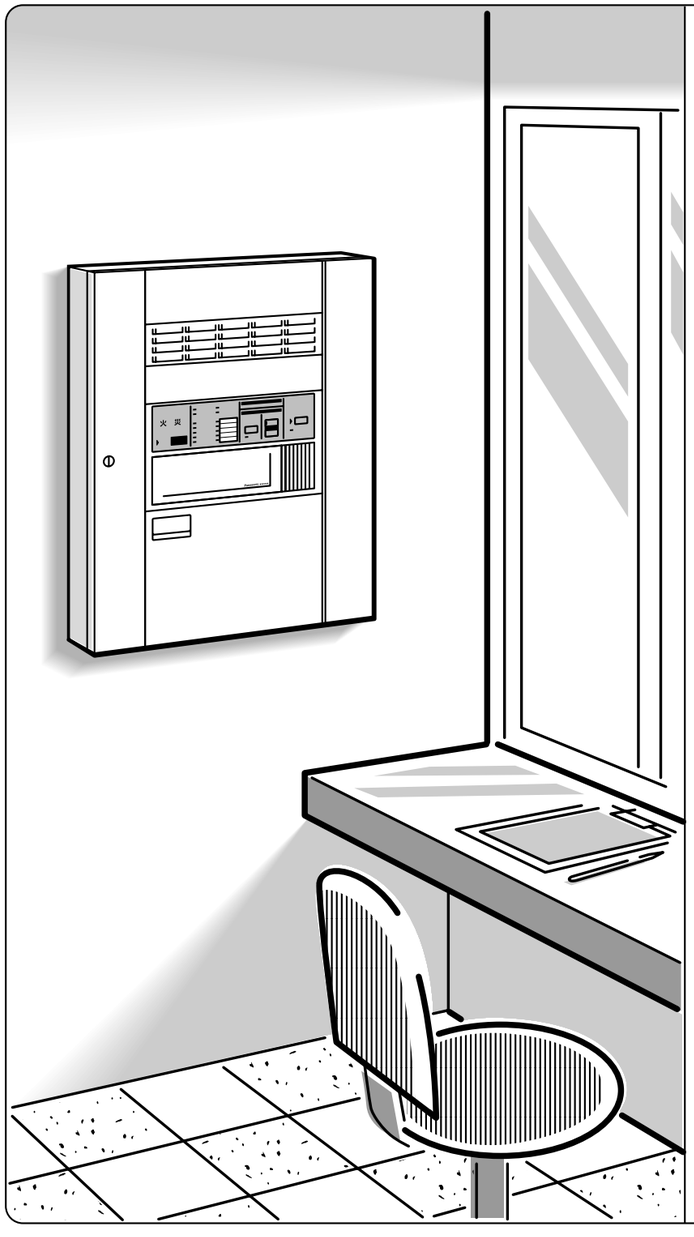
フレキシブルP-1シリーズ

P型1級複合受信機

品番 BVF 31□□K（壁掛型）
品番 BVF 32□□KF（自立型）（□□は回線数）

施工説明書

●正しく施工していただくために必ずお読みください。



施工されるまえに

●施工するには、電気工事士・消防設備士（甲種第4類）の資格が必要です。
●施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書をお渡しください。
●万一、施工説明書にしたがわず施工された場合の事故や故障などについては責任を負い兼ねることがあります。
●火災などによる損害については責任を負い兼ねますのでご了承ください。

●受信機の連動データなどのソフト設定内容の記録は施工責任者が保管してください。

●ソフト設定が必要です。
必ず設定マニュアルを参考に設定作業をしてください。

⚠警 告

●受信機の表面が汚れた場合、水をつけたり・水をかけたりして汚れを落とさないでください。
感電・故障の原因になります。
（詳しくは取扱説明書の「お手入れ方法」10ページを参照してください。）

⚠注 意

●受信機の扉の開閉にはご留意ください。
180°以上、扉をあけると扉の変形や他の物品を破損するおそれがあります。

安全上のご注意

ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。

⚠警 告

- ぬれた手で受信機をさわったり、水をつけたり、水をかけたりしないでください。
  感電・故障の原因になります。
- 電池は必ず接続してください。接続していないと停電時に機能しません。
- AC100V専用です。接続まえに入力電圧の確認をしてください。
  それ以外の電圧では故障の原因になります。
- 受信機は施工説明書にしたがい、その質量に十分耐えるように、また転倒しないように強固に取り付けてください。安易な取り付けは脱落・転倒によりケガの原因になります。
- AC100V端子の電源端子カバーは工事終了後、必ず取り付けてください。感電のおそれがあります。

⚠注 意

- アースの接続は確実に行ってください。使用時や漏電のときに感電するおそれがあります。
- 据付作業は落下・転倒防止のため、必ず2人以上で作業してください。

もくじ

1. 付属品 …… 1
2. 施工上のご注意 …… 1
3. 機能設定 …… 2～3
4. 取付方法 …… 4～5
   - ●壁掛型の場合 …… 4～5
   - ●自立型の場合 …… 5
5. 全体の接続方法 …… 6～7
6. 接続個数 …… 8
7. 地区ベルとの接続 …… 9
8. 非常放送設備との接続 …… 10
9. 住宅情報盤との接続 …… 11
10. 住宅情報盤と非常放送設備(音声警報機能付)との接続 …… 12
11. 防排煙機器との接続 …… 13
12. 地区表示・諸警報表示・その他のラベル表示について …… 13
13. 施工後の確認方法 …… 裏表紙

1.付属品

- ●取付用部品 工事用 (終端抵抗器など)…1セット
- ●予備品 保管用 (ヒューズなど)……1セット
- ●電話機……2台
- ●電池……1コ
- ●施工説明書(本紙) ……1冊
- ●取扱説明書……1冊
- ●掲示板(自動火災報知設備の取り扱いについて)…1枚
- ●設定マニュアル……1冊
- ●設定シート……2枚
- ●設定表(壁掛型の場合)……9枚
- ●設定表(自立型の場合) …… 10枚
- ●パナソニック電工お客様ご相談窓口のご案内…1枚

2.施工上のご注意

- ●この商品は 屋内専用 です。屋外・屋側には設置しないでください。
- ●接続機器については、その商品に付属の説明書をよくお読みください。

■地区ベル接続時のご注意

- ●必ず受信機の地区ベル接続容量以内でご使用ください。
- ●建物のリニューアル時などで受信機を交換する場合は下記内容にご注意ください。
  1.地区ベルが当社BV9212・BV9213の場合はBV9262・BV9263に、当社BV9214・BV9214Kの場合はBV9253・BV9254に交換が必要です。
  2.地区ベルが他社製の場合は、地区ベルのメーカーに駆動方式が電磁式でないことを確認してください。電磁式の場合は、受信機の内部回路を破壊するおそれがあります。

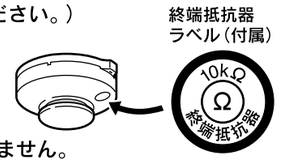
■次のような場所には設置しないでください。
(誤動作・故障の原因となります。)

- ●直射日光の当たる場所
- ●水滴、蒸気、ほこりなどがかかる場所
- ●周囲に操作上支障となる障害物のある場所
- ●衝撃、振動などの影響を受ける場所
- ●常に人がいなくてようすを確かめられない場所
- ●薬品などのガスが発生する場所
- ●強電界やノイズの発生する場所

施工時のご注意

- ●工事・施工時のゴミなどは機器の中に残さないでください。ショートや故障の原因となります。
- ●電線接続部は圧着スリーブなどで行い、絶縁処理をしてください。
  (電線をよじっただけでは、長期使用中に電線表面が酸化接触不良をおこし誤報の原因となります。)

- ●強電ライン・AC100V配線と小勢力配線はできる限り離して施工してください。
  強電ライン・AC100V配線が小勢力配線の近くにあると誤動作の原因となります。
- ●接続方法に示す機器以外の機器を接続する場合には、当社へご相談ください。
  不適切な接続は誤動作・故障の原因となります。
- ●他社商品との接続は、仕様をよく確認してください。仕様が合わないと誤動作・故障の原因となります。
- ●アースは必ず接続してください。(D種(第3種)接地相当以上(100Ω以下)としてください。)
- ●感知器配線の終端に終端抵抗器〔10kΩ〕(付属)〔当社品番:BV9840010〕を
  取り付け、終端抵抗器ラベル(付属)を貼り付けてください。
  また受信機の交換時は、終端抵抗器をご確認ください。
  指定以外の終端抵抗器は使用しないでください。

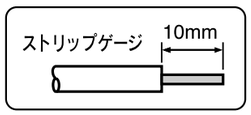


- ●蓄積型感知器および蓄積式中継器・火災表示灯〔BV9401K・BV9411K〕は、接続できません。
- ●光電式スポット型感知器(2信号)の加煙試験を行う場合は、試験復旧状態にしないでください。
  光電式スポット型感知器3種の発報確認ができなくなります。

■速結端子のご使用方法

●電線は必ず右記の単線を使用してください。 小勢力端子 | φ0.9～φ1.6

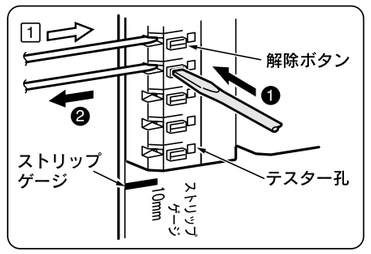
電線の接続方法



- ●速結端子への入線は、1端子あたり、1本にしてください。
- ●ストリップゲージに合わせて電線被覆を10mmむき、
  1 心線を奥まで確実に差し込む。
- 注 ●曲がった心線は使用しないでください。接触不良などをおこし、不動作の原因となります。

電線のはずし方

❶ ㊀ドライバー(小)で解除ボタンを押しながら
❷ 電線を引き抜く。



導通確認のしかた

テスター孔にテスター棒を差し込めば 結線したまま導通確認などができます。

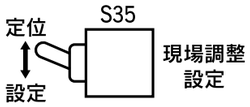
3. 機能設定

注 ●そのほかの機能設定については付属の設定マニュアルを参照してください。

❶ 現場調整設定スイッチ

●連動データ設定などのソフト設定をするときに使用します。
詳しくは設定マニュアル(11・12ページ)を参照してください。

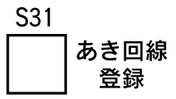
注 ●ソフト設定以外は「定位」側にしてください。



❷ あき回線登録スイッチ

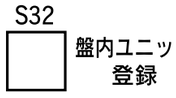
●終端抵抗器が接続されていない回線を登録します。

注 ●受信機の電源をOFFにした場合でも登録は解除されませんが、増設などにより終端抵抗器を接続し使用回線とする場合は再登録をしてください。



❸ 盤内ユニット登録スイッチ

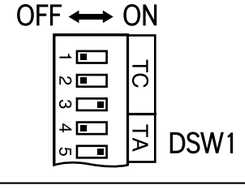
●盤内にあるユニットの登録および確認をするときに使用します。



注 ●通常は使用しないので触らないでください。触ると登録内容が変更されるおそれがあり、正常な動作ができません。

❹ タイマー設定スイッチ

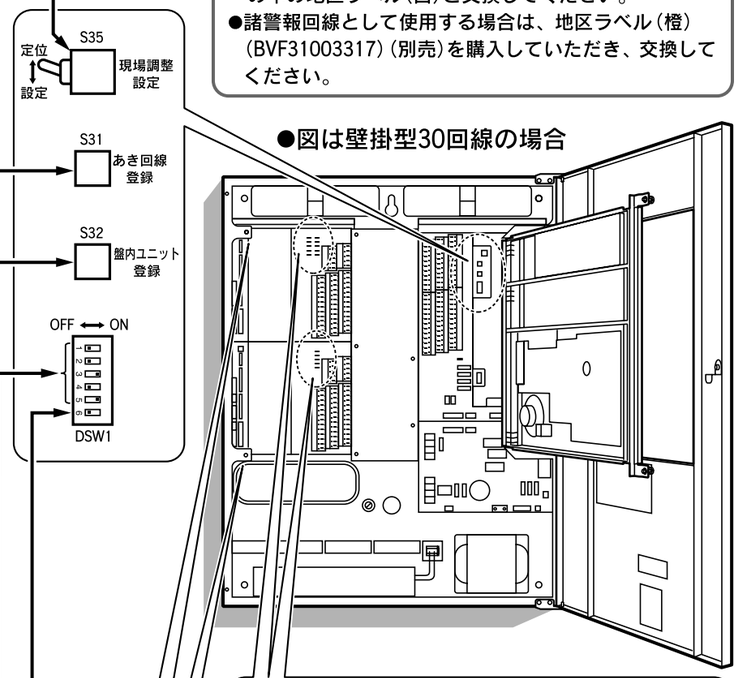
●下図は一斉鳴動移行時間(TC)を約6分、自動解除時間(TA)を約4分に設定した場合を示します。



❺ トラブル音響設定スイッチ

注 ●トラブル音響設定、自動解除時間(TA)、一斉鳴動移行時間(TC)を変更するときは、電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切(OFF)」側にしてから設定してください。

●自火報・防排煙兼用回線を自火報回線として使用する場合は、該当回線〔20回線の場合は、11～20回線(L11～L20)〕の地区ラベル(黄)を付属の取付用部品 工事用 の中の地区ラベル(白)と交換してください。
●諸警報回線として使用する場合は、地区ラベル(橙)(BVF31003317)(別売)を購入していただき、交換してください。



●図は壁掛型30回線の場合

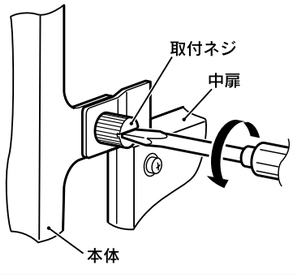
非常放送/地区音響/防排煙制御切替設定コネクタ

●現場調整設定とコネクタ設定が必要です。
詳しくは設定マニュアルを参照してください。(39ページ参照)

注 ●電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切(OFF)」側にしてから設定してください。

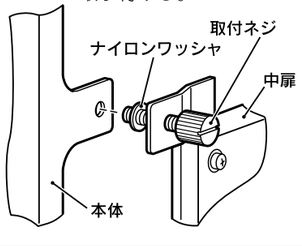
中扉のあけ方

❶ 取付ネジをゆるめ、本体と中扉をはずす。



中扉のしめ方

❶ 本体の取付穴と中扉の取付穴をあわせる。
❷ 取付ネジを押し込み、取り付ける。

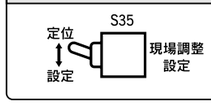


❶ 現場調整設定スイッチ

●連動データ設定などのソフト設定をするときに使用します。
詳しくは設定マニュアル(11・12ページ)を参照してください。

注 ●ソフト設定以外は「定位」側で使用してください。

出荷時設定



❷ あき回線登録スイッチ

1. すべての結線が完了後、通電を行い本体内部のあき回線登録スイッチを押してください。
これであき回線はすべて登録されます。

注 ●約5秒間は受信機の電源を切らないでください。

2. 一斉試験をしてあき回線が、確実に登録されたか確認してください。(取扱説明書31ページ参照)
もし使用回線表示試験のときに感知器および発信機の接続回線であるにもかかわらず、その地区灯が消灯している場合は終端抵抗器の接続忘れか配線が断線していますので処置してください。
あき回線登録は自動解除しません。変更する場合は、再登録してください。

❸ 盤内ユニット登録スイッチ

●盤内にあるユニットの登録および確認をするときに使用します。

注 ●通常は使用しないので触らないでください。
触ると登録内容が変更されるおそれがあり、正常な動作ができません。

❹ タイマー設定スイッチ (取扱説明書13・14ページ参照)

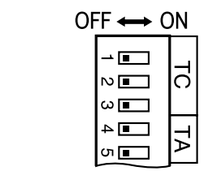
●自動解除時間(TA)と一斉鳴動移行時間(TC)の設定ができます。

自動解除時間(TA) ……地区音響鳴動時に地区音響一時停止スイッチで停止した地区音響の停止状態を自動的に解除して再鳴動させるまでの時間です。

一斉鳴動移行時間(TC) …火災第1報を受信してから地区音響を自動的に全回線一斉鳴動させるまでの時間です。

注 ●自動解除時間(TA)の設定時間は、一斉鳴動移行時間(TC)より短くなるように設定してください。長くした場合は、一斉鳴動移行時間(TC)の設定時間に関係なく自動解除時間(TA)の経過後に一斉鳴動します。
●一斉鳴動移行時間(TC)の設定が「移行しない」の場合は、区分鳴動動作から一斉鳴動には移行しません。
●非常放送設備と接続する場合は、一斉鳴動移行時間(TC)を「移行しない」に設定してください。
●220号特例基準対応の住棟受信機として使用する場合は、一斉鳴動移行時間(TC)を「移行しない」に設定してください。
●非常放送火災確認端子(EF-EC)は、自火報回線(蓄積)・自火報回線(非蓄積)で発信機の発報が入ったとき、または第2報めの火災回線発報が入ったときに出力します。
また、スプリンクラー1回線・2回線・3回線は第1報めの火災発報が入ったときに出力します。それ以外は出力しません。

出荷時設定



●一斉鳴動移行時間(TC):約4分
●自動解除時間(TA):約2分

●一斉鳴動移行時間(TC) ※設定時間は所轄の消防署に確認してください。

タイマー設定スイッチの位置	OFF ⟷ ON 1 2 3	OFF ⟷ ON 1 2 3	OFF ⟷ ON 1 2 3	OFF ⟷ ON 1 2 3	OFF ⟷ ON 1 2 3
一斉鳴動移行時間(TC)	約4分	約6分	約8分	約10分	移行しない 2・3の位置は「ON」「OFF」側のどちらでもかまいません。

●自動解除時間(TA)
※設定時間は所轄の消防署に確認してください。

タイマー設定スイッチの位置	4 5	4 5	4 5	4 5
自動解除時間(TA)	約2分	約4分	約6分	約8分

❺ トラブル音響の鳴動・非鳴動の設定方法

●トラブル灯が点滅したことを音響にて知らせる機能です。
トラブル音響を鳴動させない場合は、本体内部のトラブル音響設定スイッチを「非鳴動」側に設定してください。

出荷時設定
トラブル音響鳴動する

4.取付方法

■壁掛型の場合

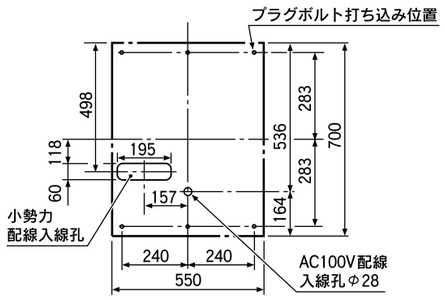
1 取付位置を決め、取付用プラグボルトを打ち込む。

- ●プラグボルト(M８)(市販品)の打ち込みと、配線を引き込む位置は下図の取付金具の取付寸法図のとおりです。
- ●この商品の取付穴寸法はφ14です。
- ●本体の底上げは28mmです。
- ●ＡＣ100Ｖ配線と小勢力配線を下図の位置より引き出してください。

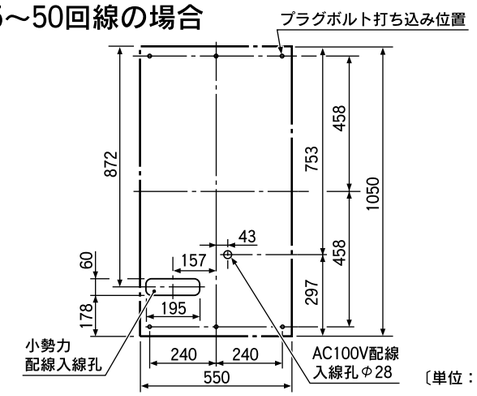
(注) ●本体の操作スイッチ部が床面から800mm～1500mmの位置になるように取り付けてください。 図1参照

取付金具の取付寸法図

●10～30回線の場合



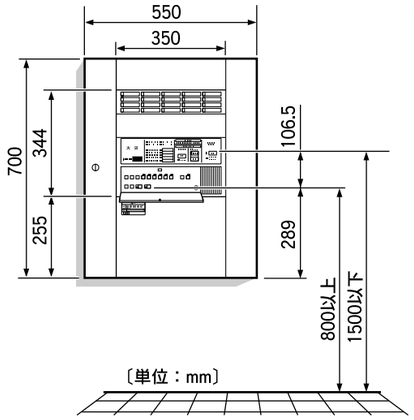
●35～50回線の場合



〔単位：mm〕

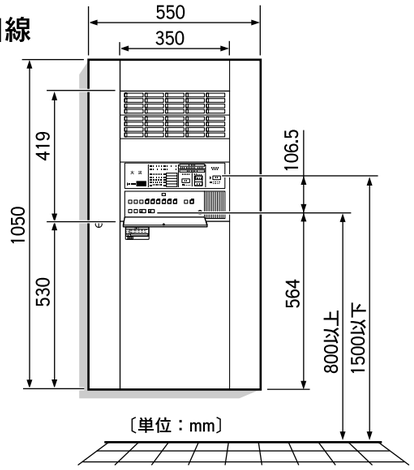
図1

●10～30回線の場合



〔単位：mm〕

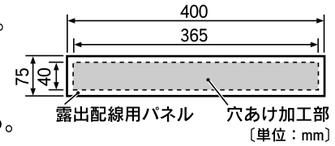
●35～50回線の場合



〔単位：mm〕

露出配線する場合

1.本体天面の露出配線用パネルを取りはずす。
2.露出配線用パネルに入線孔をあける。
（ の範囲で穴あけ加工を行ってください。）
3.露出配線用パネルを本体天面に取り付ける。



〔単位：mm〕

⚠警告

入線孔をあける場合は必ず露出配線用パネルをはずしてから行ってください。金属片が本体内部に入り、機器の故障の原因となります。

2 入線を行う。

- ●AC100Ｖ配線および小勢力配線を分割して入線してください。

3 プラグボルト(6ヶ所)で取付金具を壁面に固定する。

(注) ●表裏を間違わないように図のように取り付けてください。
●床面に対し、垂直になるように取り付けてください。傾斜角が大きいと受信機の扉の開き方が悪くなる場合があります。

4 本体を取付金具に引っ掛ける。

5 付属の取付ネジ(5ヶ所)で本体を固定する。

6 中扉の取付ネジ(2ヶ所)を取りはずし、中扉をあける。

7 配線する。

※「接続方法」参照 (6～13ページ)

(注) ●AC100V配線を接続する場合、電源端子カバーをはずして接続してください。結線後、電源端子カバーを必ず元に戻してください。
●小勢力配線を接続する場合、配線カバーをはずして接続してください。結線後、配線カバーを必ず元に戻してください。

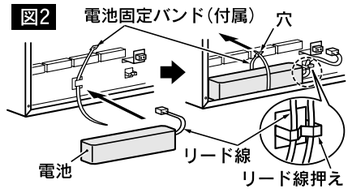
8 交流電源スイッチを「入(ON)」側にする。

9 電池のコネクタを取り付ける。

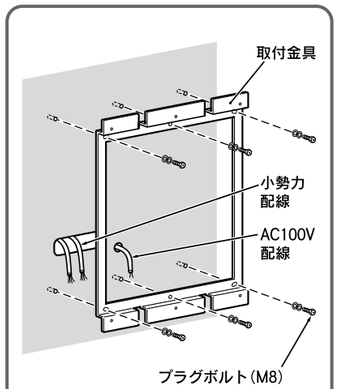
10 中扉の取付ネジ(2ヶ所)で中扉を固定し、本体の扉をしめる。

〔コモン割付表、移報端子接続表、諸警報地区窓名称ラベルは、取付用部品 工事用 に入っています。〕

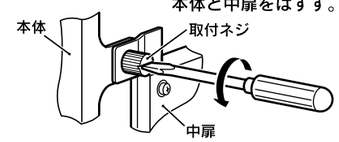
図2



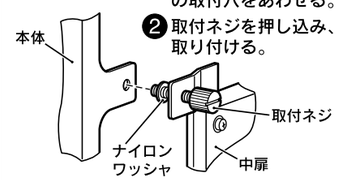
●電池固定バンド(付属)の先端を電池固定バンドの穴に通して、電池を固定し、リード線押さえに電池のリード線をはさみ込んでください。



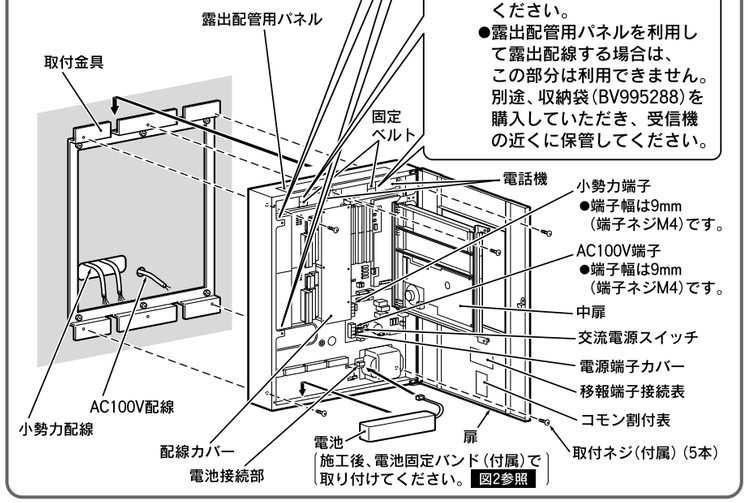
中扉のあけ方 ❶取付ネジをゆるめ、本体と中扉をはずす。



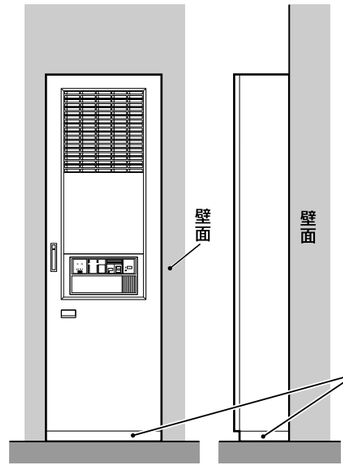
中扉のしめ方 ❶本体の取付穴と中扉の取付穴をあわせる。
❷取付ネジを押し込み、取り付ける。



(注) ●この部分に、固定ベルトを利用して電話機を収納してください。
●露出配管用パネルを利用して露出配線する場合は、この部分は利用できません。別途、収納袋(BV995288)を購入していただき、受信機の近くに保管してください。



■自立型の場合



⚠警告

●必要に応じて転倒防止の処置をしてください。設置に不備があると事故の原因になります。

⚠注意

●チャンネルベースは取付面の水平を確認し、適切なアンカーボルトを使用してしっかりと取り付けてください。

●商品外形寸法(タテ×ヨコ×奥行)
2000×600×300
※単位：mm

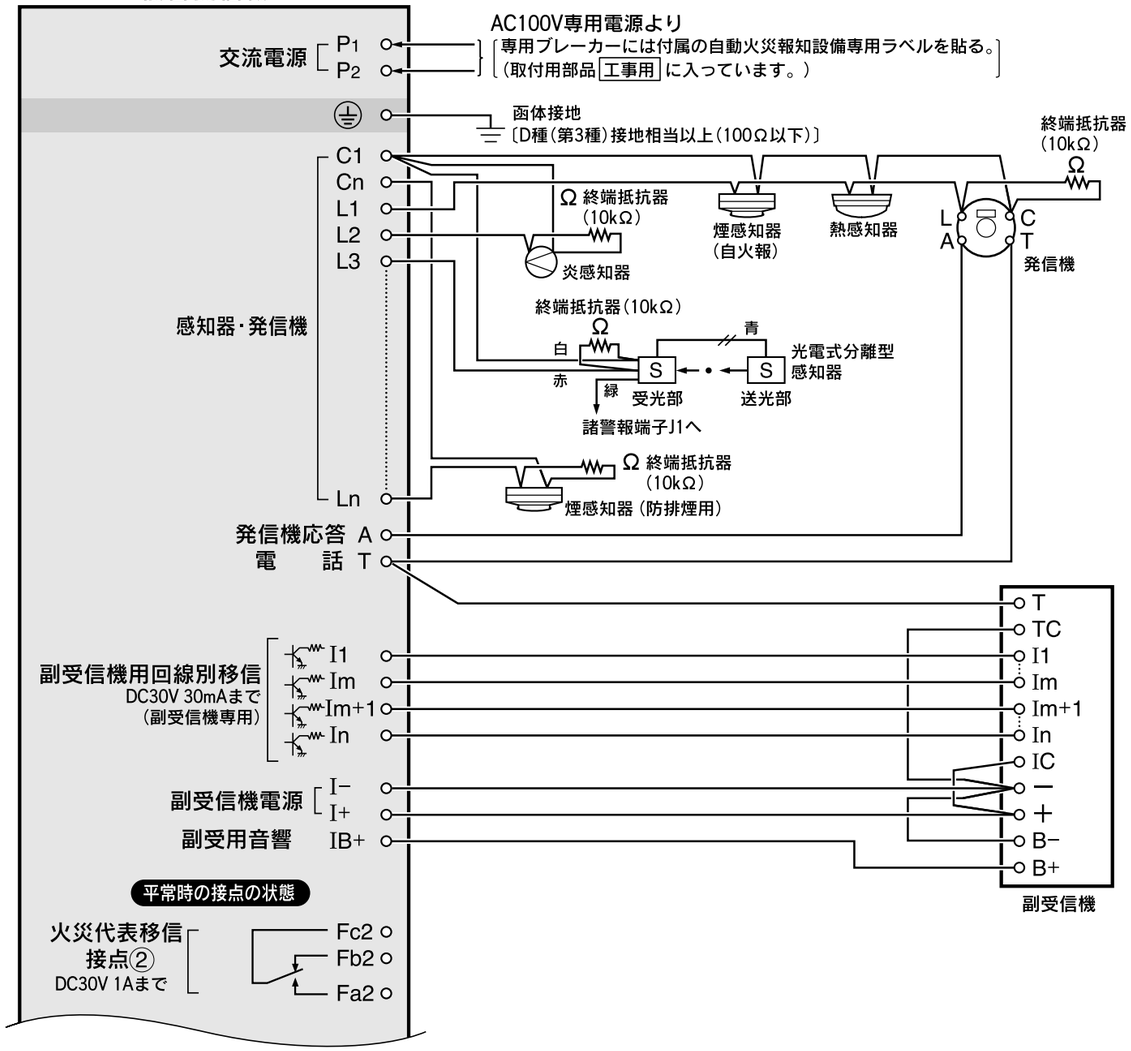
5.全体の接続方法

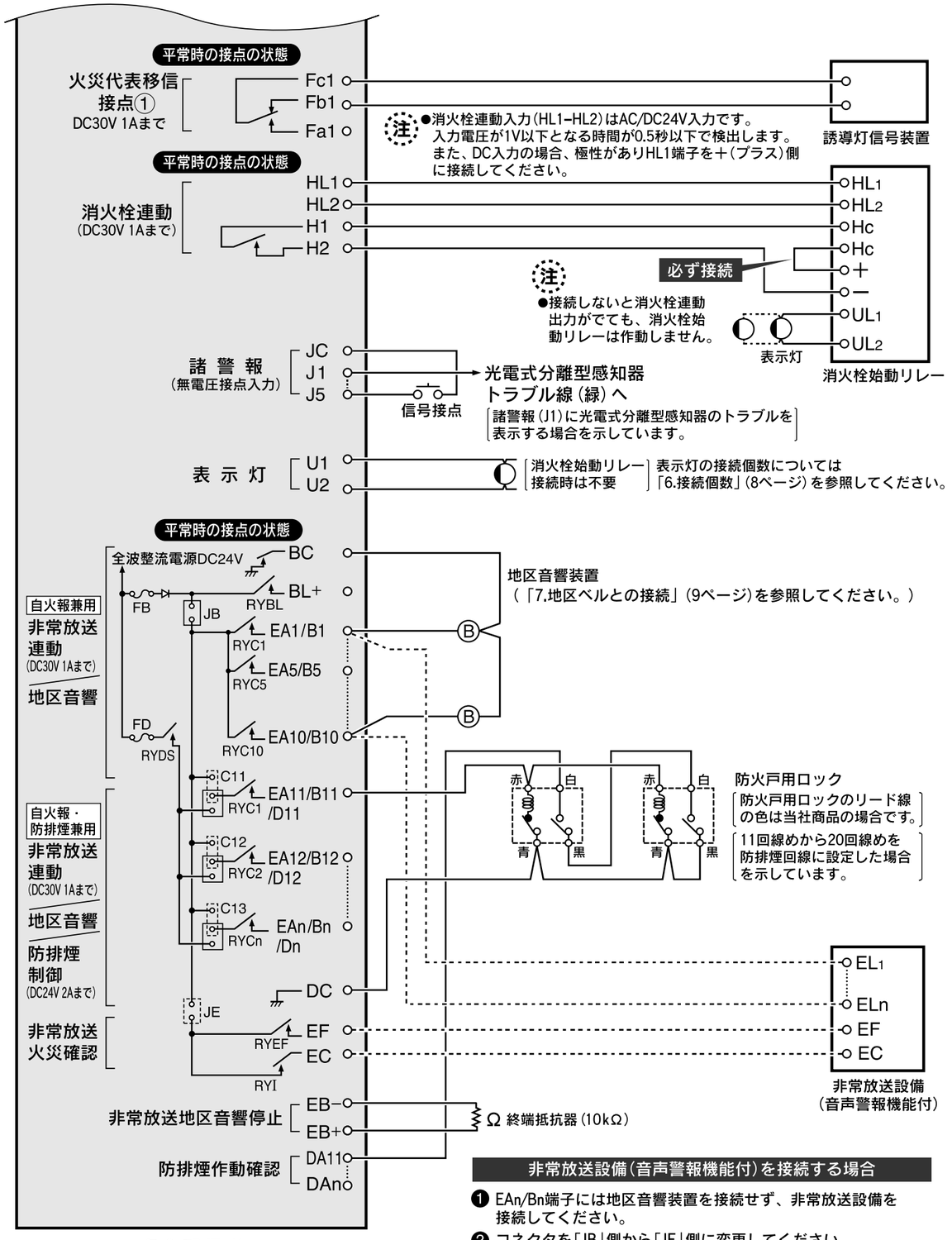
⚠警告

- ●AC100V配線の端子ネジは確実にしめつけてください。感電や発熱・故障の原因になります。
- ●電線の差し込みが不十分な場合、不動作の原因になりますので確実に差し込んでください。
- ●電線のしめつけが不十分な場合、発熱するおそれがありますので確実にしめつけてください。
- ●電源（AC100V）を切り、電池のコネクタを抜いた状態で施工してください。
  活線工事は感電や発熱・故障の原因になります。
- ●強電ライン・AC100V配線と小勢力配線はできる限り離して施工してください。
  強電ライン・AC100V配線が小勢力配線の近くにあると誤動作の原因となります。

注 ●非常放送設備を設置しない場合または地区音響を接続しない場合は、必ず終端抵抗器を受信機のEB+—EB−間に接続してください。
非常放送地区音響停止端子〔EB+—EB−〕に終端抵抗器が接続されていないとトラブル灯が点滅し、トラブル確認した場合（取扱説明書37～39ページ参照）、回線選択表示窓に E02 が表示されます。

●回線種別が「諸警報回線（自己保持あり・作動音響なし）」「諸警報回線（自己保持あり・作動音響あり）」の場合、自己保持するまでの最小入力時間は1秒以上かかります。





6. 接続個数

●配線方法は6・7ページを参照ください。

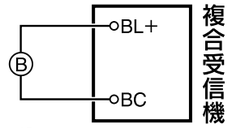
接続機器		接続個数
地区音響装置	DC24V 10mA	10・15回線：30コまで 20回線：45コまで 25・30回線：60コまで 35回線以上：80コまで
	DC24V 30mA	10・15回線：10コまで 20回線：15コまで 25・30回線：20コまで 35回線以上：26コまで
表示灯	発光ダイオードタイプ	10～20回線：20コまで 25回線以上：40コまで
	白熱球タイプ (30V 2Wタイプ)	10～20回線：7コまで 25回線以上：14コまで
感知器 (1回線当たり)	熱	無制限
	熱(自己保持型)	35コまで
	煙	20コまで
	光電式分離型	1コまで
	炎	20コまで

注 ●1回線に熱感知器(自己保持型)と煙感知器または炎感知器の混在接続の場合は最大20コまでです。

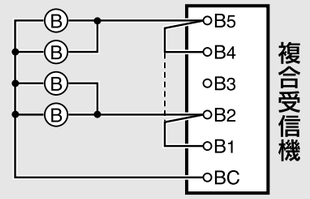
7. 地区ベルとの接続

注 1. 必ず受信機の地区ベル接続容量以内でご使用ください。
2. 建物のリニューアル時などで受信機を交換する場合は下記内容にご注意ください。
●地区ベルが当社BV9212・BV9213の場合はBV9262・BV9263に、当社BV9214・BV9214Kの場合はBV9253・BV9254に交換が必要です。
●地区ベルが他社製の場合は、地区ベルのメーカーに駆動方式が電磁式でないことを確認してください。電磁式の場合は、受信機の内部回路を破壊するおそれがあります。

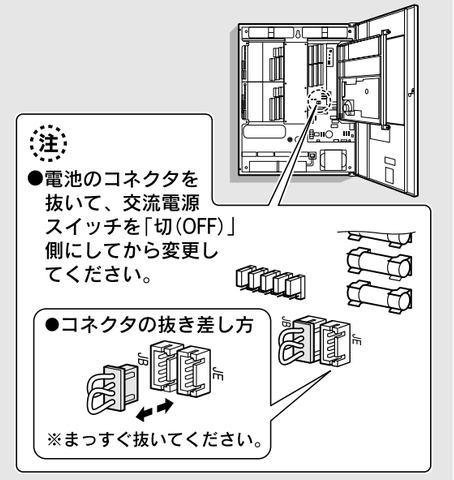
【1】一斉鳴動



【2】ブロック鳴動



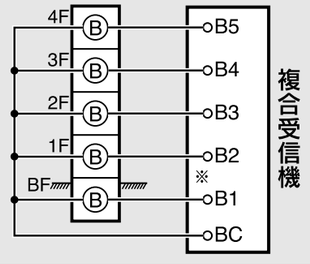
注 ●鳴動設定については設定マニュアル(25・26ページ)を参照してください。



●【2】,【3】,【4】の接続の場合、コネクタを「JB」側に変更してください。
(出荷時は「JB」側に接続してあります。)

【3】出火階・直上階鳴動

※地下階がない場合は、B1端子を使用しないでください。

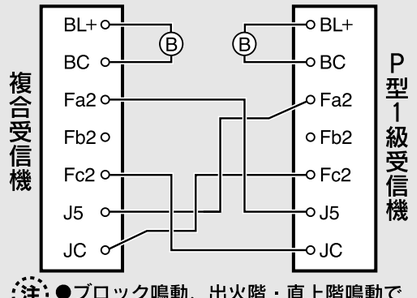


注 ●鳴動設定については設定マニュアル(25・26ページ)を参照してください。

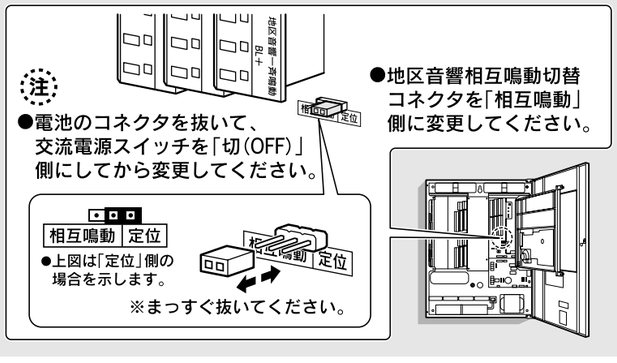
【4】相互鳴動(受信機2台の連動接続)

注 ●下記以外の受信機と接続する場合には、当社へご相談ください。

接続可能な受信機 ●BVF15□□, BVF16□□, BVF16□□F, BVF31□□, BVF32□□, BVF31□□K, BVF32□□K, BVF32□□KF(□□は回線数)



注 ●ブロック鳴動、出火階・直上階鳴動で接続する場合、コネクタを「JB」側に変更してください。



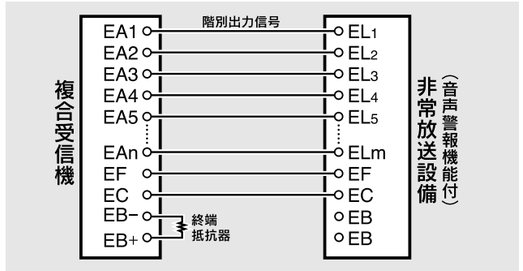
8.非常放送設備との接続

注 ●一斉鳴動移行時間(TC)の設定は「移行しない」に設定してください。(3ページ参照)
●接続後は受信機の電源を入れてから非常放送設備の電源を入れてください。
●絶縁抵抗試験をするときは、非常放送設備の内部回路が破損するおそれがありますので、必ず非常放送設備への配線をはずしてから行ってください。
●非常放送設備側の接続端子に終端抵抗器10kΩを接続してください。
●EC-EF接点が閉じるのは、発信機発報または第2報めの感知器発報の場合です。
一斉鳴動移行時間(TC)による動作では、EC-EF接点は閉じません。

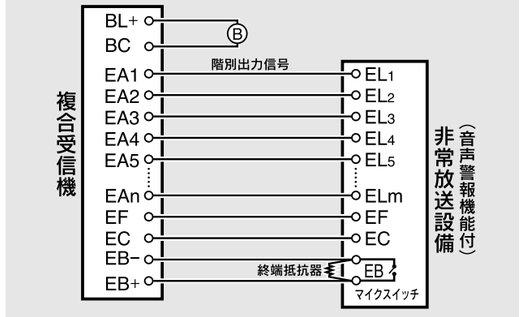
非常放送設備(音声警報機能付)

注 ●鳴動設定については設定マニュアル(3・4・25・26ページ)を参照してください。

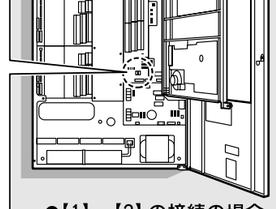
【1】地区ベルを接続しない場合



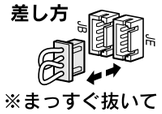
【2】地区ベルを接続する場合(一斉鳴動)



注 ●電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切(OFF)」側にしてから変更してください。



●コネクタの抜き差し方



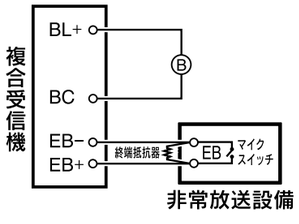
※まっすぐ抜いてください。

●【1】,【2】の接続の場合、コネクタを「JE」側に変更してください。
(出荷時は「JB」側に接続してあります。)

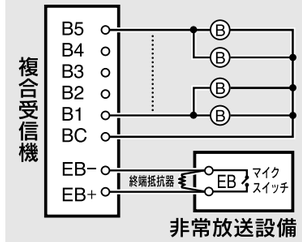
非常放送設備(音声警報機能なし)

注 ●鳴動設定については設定マニュアル(25・26ページ)を参照してください。

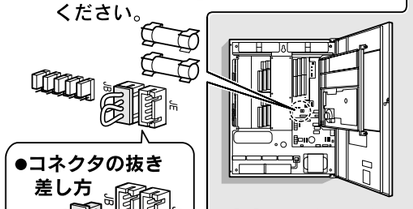
【1】一斉鳴動



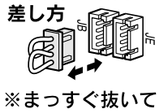
【2】出火階・直上階鳴動



注 ●電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切(OFF)」側にしてから変更してください。



●コネクタの抜き差し方

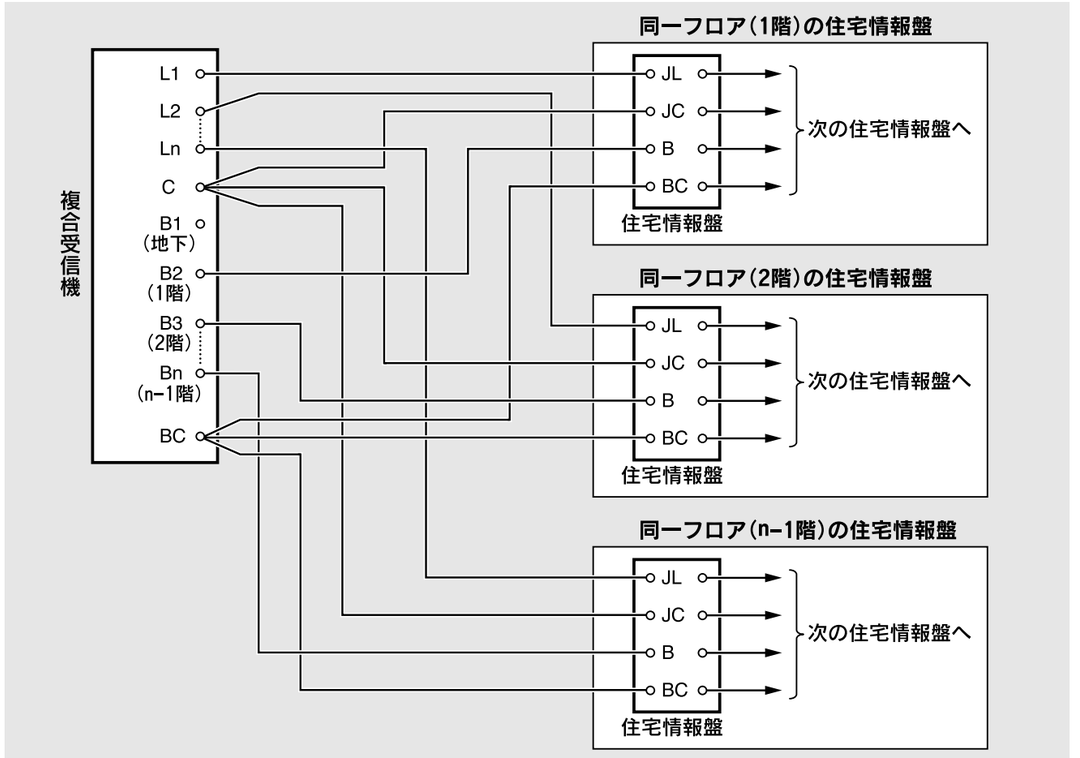


※まっすぐ抜いてください。

●【2】の接続の場合、コネクタを「JB」側に変更してください。
(出荷時は「JB」側に接続してあります。)

9.住宅情報盤との接続

注 ●回線種別の設定は「自火報回線(非蓄積)」に設定してください。(設定マニュアル(13・14ページ)参照)
●地区音響鳴動設定(ソフト設定)が必要です。(設定マニュアル(25・26ページ)参照)
●一斉鳴動移行時間(TC)の設定は「移行しない」に設定してください。(3ページ参照)
●内部の非常放送/地区音響/防排煙制御切替設定コネクタを「非常放送/地区音響(EA/B)」側に変更してください。
(出荷時は「非常放送/地区音響(EA/B)」側に接続してあります。)(設定マニュアル(39ページ)参照)
●住宅情報盤は受信機の感知器端子(Ln, C)、地区音響端子(Bn, BC)を使用して接続してください。

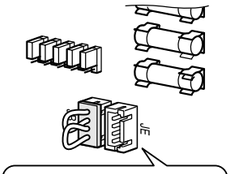


■住宅情報盤の接続個数

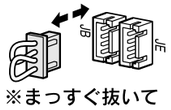
注 ●下表は共用部にP型3級受信機(BGH1301・BGH1301H)(別売)を3台接続した場合を示します。

受信機の回線数	地区音響容量	住宅情報盤の接続個数
10・15回線	300mA	94コまで
20回線	450mA	144コまで
25・30回線	600mA	194コまで
35回線以上	800mA	260コまで

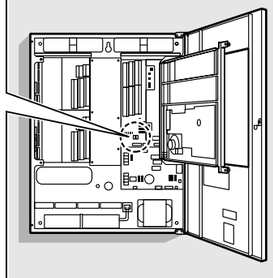
注 ●電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切(OFF)」側にしてから変更してください。



●コネクタの抜き差し方



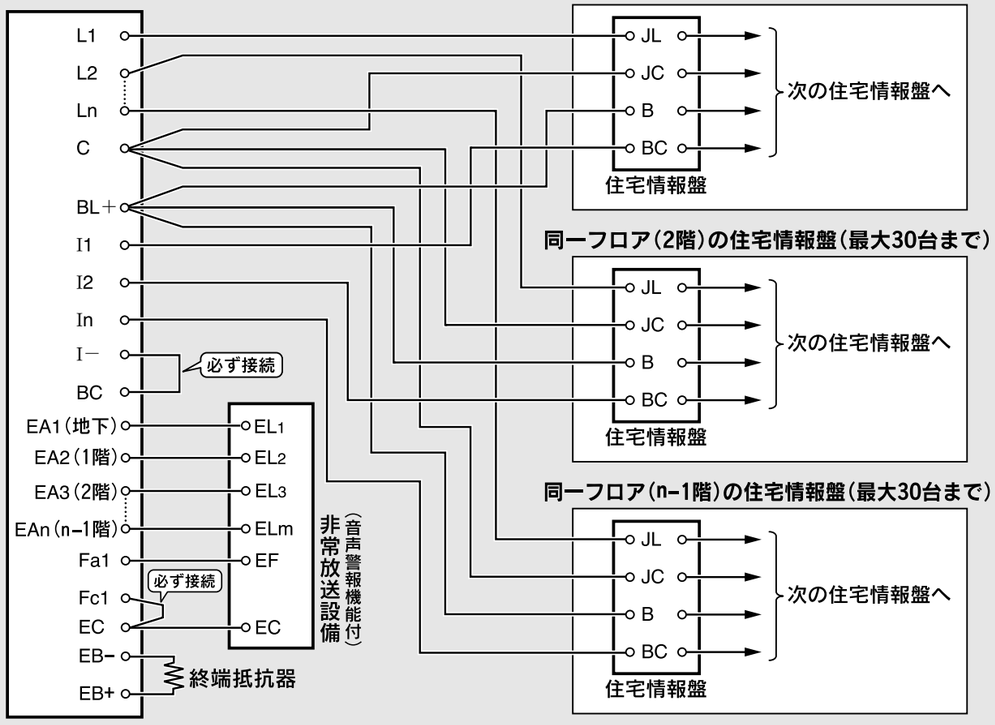
※まっすぐ抜いてください。



●コネクタを「JB」側に変更してください。
(出荷時は「JB」側に接続してあります。)

10.住宅情報盤と非常放送設備(音声警報機能付)との接続

注 ●回線種別の設定は「自火報回線(非蓄積)」に設定してください。(設定マニュアル(13・14ページ)参照)
●地区音響鳴動設定(ソフト設定)が必要です。(設定マニュアル(25・26ページ)参照)
●回線別移信設定(ソフト設定)が必要です。
回線別移信(In)出力が出火階・直上階出力になるように設定してください。(設定マニュアル(29・30ページ)参照)
●地区音響一斉鳴動スイッチ操作による回線別移信一斉出力設定(ソフト設定)が必要です。(設定マニュアル(34ページ)参照)
●一斉鳴動移行時間(TC)の設定は「移行しない」に設定してください。(3ページ参照)
●内部の非常放送／地区音響/防排煙制御切替設定コネクタを「非常放送／地区音響(EA／B)」側に変更してください。
(出荷時は「非常放送／地区音響(EA／B)」側に接続してあります。)(設定マニュアル(39ページ)参照)
●ひとつのIn端子に接続できる住宅情報盤の数は30コまでです。
同一フロアに31台以上接続する場合はIn端子を複数使用してください。
●住宅情報盤は受信機の感知器端子(Ln, C)、地区音響鳴動端子(BL+, BC)、回線別移信端子(In, I−)を使用して接続してください。

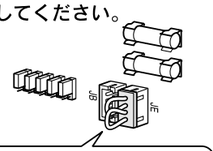


■住宅情報盤の接続個数

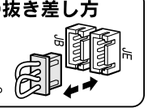
注 ●下表は共用部にP型3級受信機(BGH1301・BGH1301H)(別売)を3台接続した場合を示します。

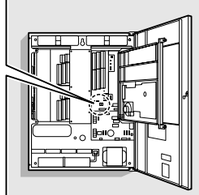
受信機の回線数	地区音響容量	住宅情報盤の接続個数
10・15回線	300mA	94コまで
20回線	450mA	144コまで
25・30回線	600mA	194コまで
35回線以上	800mA	260コまで

注 ●電池のコネクタを抜いて、交流電源スイッチを「切(OFF)」側にしてから変更してください。



●コネクタの抜き差し方
※まっすぐ抜いてください。



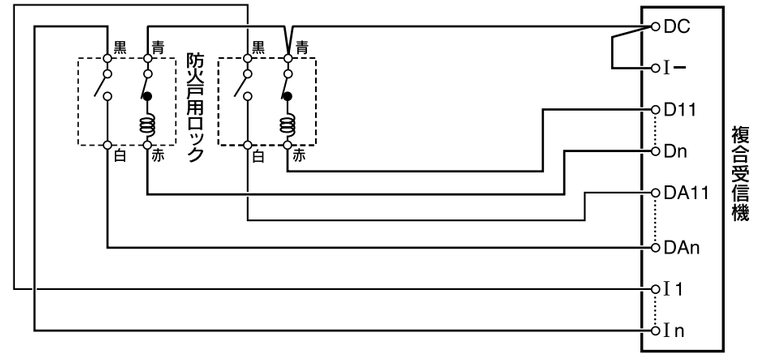


●コネクタを「JE」側に変更してください。
(出荷時は「JB」側に接続してあります。)

11.防排煙機器との接続

注 ●防火戸用ロックのリード線の色は、当社商品の場合です。
●内部の非常放送／地区音響／防排煙制御切替設定コネクタの変更と回線種別設定(ソフト設定)が必要です。(設定マニュアル(13・14・39ページ)を参照してください。)

●防火戸手動閉鎖で地区灯を点灯させない場合



12.地区表示・諸警報表示・その他のラベル表示について

1. 地区表示

●取扱説明書の「受信機の地区ラベルの交換」(43ページ)を参照してください。

2. 諸警報表示

●取扱説明書の「諸警報表示部について」(44ページ)を参照してください。

3. 自動火災報知設備専用ラベル

●専用ブレーカーの近くに貼り付けてください。

4. 掲示板(自動火災報知設備の取り扱いについて)

●受信機の近くに掲示してください。